

# 「障がい者福祉の体験」

担当教員名 朝比奈 茂・宮川 路子

## コース概要

日程	2017年8月5日～19日
場所	群馬県安中市松井田町ゆきわり山荘
参加人数	24名

## コースのねらい

障がい者の方々と寝食をともにして過ごすことで福祉活動の現状に触れ、その大変さを身をもって体験し、人として人生のあり方、今後の生き方を考え、見つめ直すことを目的としています。

## 内容

障がい者の方と一対一で向き合い、2泊3日、または3泊3日の合宿で様々な活動に参加しながら寝食をともにします。活動内容はジョギング、マラソン、和太鼓、絵画、水遊び、プール遊び、ハイキング、温泉、バーベキュー、野菜の収穫、ポニーとの触れ合い、食事作りなどバラエティーに富んでいます。ほとんどの学生さんは障がい者との触れ合うのは初めてで、参加前には不安そうな面持ちでしたが、合宿参加前にリーダーの方との打ち合わせを行い、合宿に参加し、日にちを追うごとに落ち着いてしっかりとした対応が出来る様になっていきます。

FSを終えた後には達成感と充実感で自信に満ちた顔つきに変わりました。障がいがあってもなくても同じ人間であり、特別なことは一切ないということを知り安心するとともに温かい気持ちになったようです。言葉が通じなくても気持ちが通じること、笑顔が人を幸せな気持ちにさせること、スキンシップ、ぬくもりが人に安心感を与えることなど、当たり前のように普段の生活では忘れていた小さいことがいかに大切かを気づかせてくれる実習となりました。人との関係を構築するうえで相手を理解しようと努力し、思いやる心が相手の心をひらき、そして自分の心も癒されることも実感しました。実習の終わりのお別れのときには寂しい気持ちがこみあげて涙を流す学生もいました。今回は2回目の参加となる学生もいましたが、1回目のときはまた異なる気づきがあり、感動をもったようです。事後講義では、障がい者と健常者の間にある壁を作っているのは健常者なのだという意見が出ていました。

## 学習を終えて

私が今回FSで成し遂げたいと考えていたことは、「年齢、価値観、立場などの違いのある障がい者の方と心を通わせ、様々な壁を越え、心のそこから笑いあう」ことだった。FSに参加するまで私は大学生活で身に着けたことが役に立つと考えていたが、実際にともに時間を共有してみると私の考えが浅はかなものであったことを思い知らされた。なぜなら私は言語によるコミュニケーションに依存していたからだ。私が担当したのは会話が困難なYさんで、彼との交流を深める術を私はもっていなかったのだ。これではいけないと感じ、身振り、手振りによる対話を心がけるようにした。手をつないだときはその手を強く握り返した。一緒に他の人のためになるようなお手伝いをして、ちゃんとYさんができたときにはハイタッチをした。そのとき、Yさんの口元が少し緩んだ気がした。Yさんと銭湯でアイスクリームを食べているとき、「美味しそうにアイスクリームを食べる選手権」があったら間違いなく一位を取れるほどの素敵な笑顔を見ることができた。結局はアイスクリーム頼りなのだが、あの瞬間は二人とも心の底から笑っていたと思っている。4年J組横田 陸



おにぎり作り



トレッキング



トレッキングの風景